

## 地球温暖化防止活動

チーム・マイナス6%の一員として、  
3E活動で温暖化防止に取り組んでいます。

地球レベルでの対応が求められる地球温暖化対策として、CO<sub>2</sub>排出量を2010年度末までに1990年度比10%減とする中長期プランを策定し、多岐にわたって省エネルギー活動を進めています。2007年度は大幅に温室効果ガスを削減することができました。

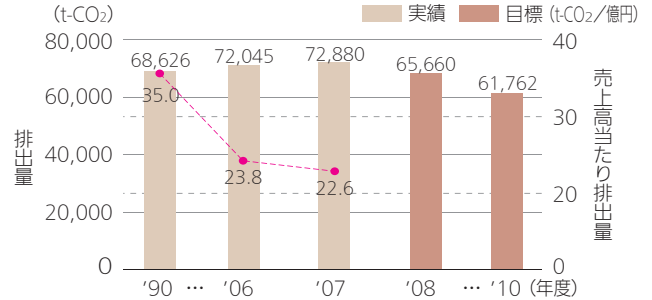
### 2007年度の活動実績

2007年度は非稼働時間エネルギー“ゼロ”を目指し、生産設備、照明などの直間（昼勤と夜勤の間）時の停止、休日の省エネ一斉停電を実施しました。その他の活動では、これまで実施した事例の水平展開として窓ガラス断熱フィルム貼付、蛍光灯のインバータ安定器への交換、照明の人感センサ取付などを実施しました。その結果 CO<sub>2</sub> 排出量原単位は前年度比約5%減となりました。

また、温室効果ガス(5ガス)<sup>\*</sup>の排出量は、SF<sub>6</sub> ガスの使用量低減による効果で、前年度比約80%減となり、2010年度目標を前倒しで達成しました。

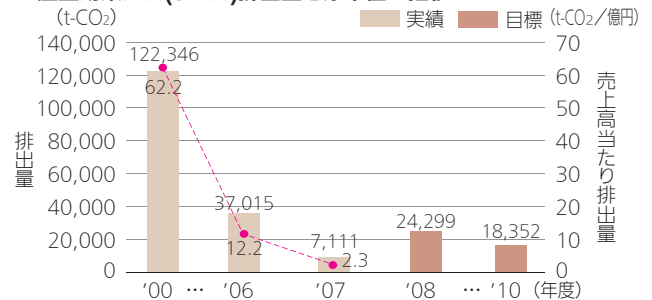
<sup>\*</sup>温室効果ガス(5ガス)  
1998年に制定された「地球温暖化対策の推進に関する法律」の中で定められたガスのうち二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)を除く、メタン(CH<sub>4</sub>)、一酸化二窒素(N<sub>2</sub>O)、代替フロン等(HFC、PFC、SF<sub>6</sub>)を指します。

■CO<sub>2</sub>排出量と原単位の推移



07年度より非生産分も加えた活動とし、基準年である90年度の排出量を把握できない非生産拠点は、それ以降で把握できた最も古いデータを使用しました。

■温室効果ガス(5ガス)排出量と原単位の推移



### 主な取り組み事項

	'07	'08	→
生産設備に関する活動	多消費設備改善WGによる改善		
	歩留り改善WG発足		
	省エネモデルライン設置、非稼働時エネルギー“ゼロ”化		
	駆動用エア圧の低圧化		
	成形機の電動化移行		
原動力設備に関する活動	個別空調省エネ機器取付		
	照明器具のインバータ化、高効率照明への更新、トイレ人感センサ導入、明かり取り窓設置		
	コンプレッサの台数制御、低負荷時用小型設備導入	旧型設備の更新	
	自然エネルギーの利用:太陽光発電・風力発電の導入、屋上緑化、壁面緑化		
全社共通の活動	自動販売機の休日・夜間の完全停止		
	省エネ事例発表会、社外発表会	省エネ展示会の開催	
	表彰制度の拡大、CO <sub>2</sub> 原単位評価の細分化		
	グリーン電力購入		
	社内外向けエコツアー実施		

**中期目標**

CO<sub>2</sub>排出量 **10%減**  
2010年度末90年度比

温室効果ガス  
(5ガス)排出量 **85%減**  
2010年度末00年度比

**3E活動**

**Environmentally**  
CO<sub>2</sub>排出量低減

**Effectively**  
経済産業省合理化目標達成

**Economically**  
利益体質の改善

## 太陽光発電の導入

2007年度は、7月に完成した豊田工場新棟と、11月に完成した音羽工場の立体駐車場に太陽光発電パネルを設置しました。2006年度までに設置が完了している本社工場を合わせると、最大で53kWの発電が可能となり、2007年度は約92tのCO<sub>2</sub>排出量を削減することができました。

今後も太陽光発電の拡大など自然エネルギー利用を進めていきます。



▲音羽工場立体駐車場



▲豊田工場新棟



▲本社・本社工場立体駐車場



▲本社・本社工場正門前待合所

## グリーン電力の購入

グリーン電力とは、風力や太陽光、バイオマスなど自然エネルギーによって発電された電力のことで、CO<sub>2</sub>を排出しないクリーンなエネルギーです。

本社・事務棟では2007年度より、日本自然エネルギー株式会社による「バイオマスグリーン電力」を使用しています。これにより、年間でCO<sub>2</sub>排出量を約66t削減することができます。



▲グリーンパワーマーク

## 省エネ取り組みへの社内表彰

2007年度の省エネへの取り組みにおいて、CO<sub>2</sub>削減実績、改善事例提案件数などの活動が優秀であった分科会を表彰しました。最優秀分科会を受賞した「西枇工場分科会」には表彰状とエコタンブラーを全員に贈呈しました。また、2010年度目標を前倒しで達成したVCセンター分科会と、国内子会社のエヌ・エス・ケイについても表彰しました。



▲表彰式



▲記念品のエコタンブラー